【人吉市】

校務ＤＸ計画

　文部科学省は、次世代の校務ＤＸの方向性として、「働き方改革の観点」、「データ連携の観点」、「レジリエンスの観点」の３つの観点の事柄を実現する必要があるとしている。　（文部科学省：ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸについて〔令和５年３月８日〕）

例えば、「働き方改革の観点」からは「汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする」とある。

本市では、校務支援システムの一環として令和５年度よりタイムカード（出退勤管理機能）やメッセージ機能、アンケート機能等がある「ミライム」を導入した。「ミライム」には、。これまで、職員の出退勤の管理は、毎日職員が出退勤時に入力したExcelファイルで管理されており、データの不具合などにより集計等の業務に時間と労力がかかり、教職員の負担となっていた。また、データの共有や、やりとりをシンクライアント端末の共有フォルダや紙媒体で行っていたが、情報量の過多から新たなデータが保存できなかったり、データの置き場所を探す手間がかかったりと教職員の負担が非常に大きい状況にあった。しかし、本システムを導入したことにより、ペーパーレス化や既読機能による情報の周知のしやすさ、自身の端末からアクセス可能による打刻の時間短縮等、様々な負担軽減に繋がり、文部科学省が考える「働き方改革の観点」を踏まえたシステムの導入ができた。

今後の課題としては、他のツールとの連携や接続性について様々な校務支援システムを一本化するなど、更なる教職員の負担軽減に尽力したいと考えている。